



母児を感染から守る —妊産婦の感染症アップデート—

医学や医療の歴史は、感染症とのせめぎあいの歴史であるといってもよいでしょう。人類は様々な感染症やパンデミックを経験し乗り越えてきました。また、現在も形を変えて COVID-19 との戦いが続いています。産科診療でも、時代とともに主要な感染症は移り変わってきましたが、様々に対峙してきました。

現代において妊産婦の感染についての最大の課題は、感染による母体死亡の撲滅です。近年、妊産婦死亡の原因として劇症型 A 群溶血性レンサ球菌 (GAS) 感染症が注目されており、それ以外にも、まれな発生ではありますが不良な転帰をもたらす母体感染症が存在します。また母体死亡原因とはならなくても、情報の少ない常在菌の母体感染などは、しばしば診療の盲点となり治療を難渋させます。

また産科のもう 1 人の患者である胎児についても、母体からの感染の影響を考えなければならない場面に臨床の現場では多々遭遇します。

われわれは常に病原体と共存しているわけであり、これ以外にも妊産婦の感染症は多様なものがあるわけですが、今回は上に述べた 2 つの点を中心に特集を組ませていただきました。ご執筆は、それぞれの病原体や病態、背景に精通したエキスパートの先生方をお願いしました。母子感染のいくつかについては、産婦人科医とは異なる視点に触れることに期待して、小児科の先生方に執筆をお願いしています。

本特集が、妊産婦の感染症に関する知識のアップデートとなり、読者の皆様の産科診療の一助となれば幸いです。

(東海大学医学部専門診療学系産婦人科 石本人士)